

第1学年 道徳学習指導案

平成28年10月26日(水) 第5校時

1 主題名 マナーの大切さ 【内容項目 4 - (2)】

資料名 「マナーは考えなくていいのか」

(出典 彩の国の道徳(中学校)「自分をみつめて」埼玉県教育委員会)

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

内容項目4 - (2)は、「公德心及び社会連帯の自覚を高め、よりよい社会の実現に努める。」ことをねらいとしている。公德心は、社会生活の中で守るべき正しい道として公德を大切にする心である。社会生活においては、一人一人が共に手を携え、協力しだれもが安心して生活できる社会をつくっていかうとする社会連帯の自覚は欠かすことができない。

中学生になると、ボランティア活動に取り組むなどよりよい社会の実現を求める気持ちが強くなってくる。その反面、公の場で、意識するかしないかにかかわらず自己中心的な言動をとってしまうことも少なくない。また、既成のものに対する反発がでてくる年代ではあるが、本来自己中心的で身勝手な言動を良くないと思う心が内面には十分あり、だれもが望むよりよい社会の実現については大人より純粋に考えることができる。

指導にあたっては、生徒一人一人に自分も社会の一員であるという自覚を深めるようにして、互いに積極的に協力し合おうという意欲を育てるように工夫をすることが大切である。また、よりよい社会を実現するためには、社会生活を営む上で必要とされる約束やきまりを重んじ、また、社会生活において互いに迷惑をかけることのないような行動の仕方を身につけるとともに、自他への配慮と深い思いやりを大切にし、進んで社会とかかわり積極的な生き方を模索しようとする態度を育てる必要がある。

(2) 生徒の実態について

生徒は明るく素直で、きまりや学級の係・当番の仕事も責任をもって果たす生徒が多い。体育祭を通して個人個人の利害を超えて協力することの大切さを実感した生徒が多く、人間関係も穏やかで落ち着いたものとなっている。また、現在合唱祭に向けた取組を行っており、合唱をよりよくするために互いに意見を交わし合う姿も見られるようになった。

事前に行ったアンケートによると、「マナーは大切なものだ」と答える生徒が98%以上で大半を占めていた。また、「マナーを守ることができている」と答えた生徒は80%以上であった。また、マナーが必要な具体的な場面を聞くと、「自転車の乗り方」や「電車やバスなどの公共の乗り物の乗り方」などの回答が見られたため、こういった場面でマナーが必要なのかも理解しているようである。しかし、本校は毎年自転車通学者の自転車の乗り方が課題として出てくる。このような実態を鑑みると、生徒はマナーの重要性やすべき行動について理解をしながらも守ることができていないこと、さらにマナーが守れていないことが自分たちの課題であるということが把握できていないと考えられる。

そこで、本資料ではマナーについて考えさせるとともに、級友と話し合い、交流することで、マナーについて理解を深め、道徳的な判断力、そして実践意欲と態度をはぐくむよう指導していきたい。

(3) 資料の活用について

本資料は、新聞記事を取り上げ、その記事についてのコラムを掲載したものである。飛行機内で、携帯電話の使用について注意された男性客の態度が悪く、飛行機の出発が遅れたという記事に対して、吉永氏のコラムが併載されている。吉永氏は、まず飛行機内での携帯電話の使用が許可されている飛行機が導入され始めていることに触れている。しかし、許可されることによって同乗者にどのような影響が出るのかを考え、飛行機内の携帯電話の使用について疑問を呈している。

本時では、知識構成型ジグソー法を参考にした授業を行う。「知識構成型ジグソー法」とは、

- ①一人一人が、まず自分で考えて「問い」に対する答えを書く
- ②問いに対する答えを得るために必要な部品（ある視点）の担当グループに分かれ、資料をともに話し合う（エキスパート活動）
- ③各エキスパートグループを解体し、一人ずつ組み合わせて新たなグループを作り、意見を統合し問いに対する新たな答えを出す（ジグソー活動）
- ④最後に、各ジグソーグループで考えた自分たちの答えを全体で交換し合い、一人一人が、いろいろな答えから自分で最も納得のいく「言い方」「表現」を拾って、納得できる答えを得る（クロストーク活動）

のことである。(埼玉県総合教育センター学力向上BOOKLET参考)本時では、これらすべては用いないが、こういった活動の中で、生徒の思考が深まるように指導を行う。また、本資料は、3つに分けて生徒に提示する。加えて、吉永氏のコラムを授業者が加筆修正を行い、生徒へ配布する。マナーについて理解しながらも、実践できていない生徒の実態を考え、自ら考え、意見交流し異なる視点の意見を聞き、さらに道徳的価値について深く考えさせるためである。これらの学習活動を通して、マナーを守ることの大切さを理解し、実践できる生徒の育成を図りたい。

3 研究主題との関連について

本校は本年度、研究主題「学ぶ意欲を高める指導方法の研究～生きる力を身につけ実践できる生徒の育成を通して～」を設定し、アクティブラーニングを取り入れた授業実践を中心に各教科で研修を進めている。

道徳にアクティブラーニングを取り入れる上で、まず従来の形である、資料を読み、主人公の心情やその変化に気づかせていくというパッシブラーニング的な授業展開から離れることが有効であると考えた。

資料の内容を参考程度にとどめ、ねらいとする道徳的価値を自分たちの身近な生活の中に見いださせることで、子供達がより主体的な態度で、道徳的な問題を発見し、その解決策を考え、協働的に話し合う議論が深まるのではないかと考えた。

4 ねらい

マナーは自分たちの生活を豊かにするためにあると改めて気づき、その重要性を考えさせ、生活に生かせる道徳的な判断力、実践意欲と態度を育てる。

5 他の教育活動等との関連

事前指導	アンケートを実施し、生徒の実態を把握する。 自転車通学時の自転車の乗り方のマナーについて指導し、マナーについて考える場を設ける。
道徳の時間	資料名「マナーは考えなくていいのか」
事後指導と家庭との連携	本時の授業内容や生徒の感想を学級通信で紹介し、家庭でもマナーについて、話題にしてもらう。

6 学習指導過程

段階	学習活動・主な発問 (○)	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の観点
導入	1 公共の乗り物での携帯電話の使用について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 電車の中では、優先席近くでは使ってはいけない。 飛行機の中は使ってはいけないって聞いた。 	<ul style="list-style-type: none"> 本資料に対する興味関心をもつとともに、多くの生徒に発言させ、雰囲気づくりを図る。
展開	2 条件状況を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 資料を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの中で価値について深めさせるため、この時にはタイトルを提示しない。
	確認事項 飛行機での携帯使用についての新聞記事。 男性客の携帯使用により、飛行機の出発が遅れる。 繰り返し注意を受けたが、聞き入れなかった。		<ul style="list-style-type: none"> 記事についての判読を聞き、本資料のテーマについて考えさせる。
	3 Aの資料(新聞記事)について教師の判読を聞く。		
	○この新聞記事について、どんな感想を持ちましたか。		
		<ul style="list-style-type: none"> 自分勝手な人だ。 他の乗客が迷惑するはずだ。 	<ul style="list-style-type: none"> すようにする。 生徒の感想をもとに、学習課題を提示する。

学習課題:みんなが過ごしやすい社会について考えよう。

4 二つに分けた資料 (B、C) をそれぞれが黙読する。

前後半の班にそれぞれ配布する。

- ・ 別々の資料を配布すること、授業の後半でその資料についてそれぞれの班の意見を交流することを伝える。

○その意見についてあなたの意見を付箋に書いてみましょう。また、なぜそう思ったのか理由も書いてみましょう。

(前半資料)

- ・ 飛行機の機器に支障がでるから使ってはいけない。
- ・ 電波が変わったのならば、使ってもいいのではないか。
- ・ 飛行機の中で携帯電話が使えるのは便利だ。

(ルールに重きを置く理由)

(後半資料)

- ・ たくさんの人がいるのだからお互いに気を使わなければいけない。
- ・ 電話の声をいやがる人もいるのではないだろうか。
- ・ 飛行機の中は静かに過ごしたい。

(マナーに重きを置く理由)

付箋の書き方の例

私は、○○○と思う。
理由は、～だからだ。

- ・ 記事に対しての意見を書けない生徒に対しては、その意見に対して賛成か反対かを書き、その理由を書くように指導する。
- ・ 付箋は、一人5枚配布しておく。

☆意見文に対しての、自分の意見を書くことができるか。(観察)

○付箋を持ち寄り、班の中で互いの意見を聞きましょう。また、班で出た意見をまとめ、他の班に説明できるようにしておきましょう。

- ・ 班で意見をまとめるわけではなく、意見交換をするように留意する。また、友だちの意

	<p>5 班の代表者2名が別資料を読んだ班に意見を聞きに行く。(3分で行う。)</p>		<p>見を聞いて自分の意見が変わってもいいことを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習班長とその隣の生徒が意見を聞きに行く。また、付箋を持っていき、その班の意見をメモするよう指示する。 ・ 班に残った生徒は別の班から来た人に自分の班で話し合ったことについて説明する。
<p>(中心発問)学習班長が新たに聞いた意見を班で共有し、班でもう一度考えてみましょう。ただし、考えるときに忘れてはいけないのは、今日の課題「みんなが過ごしやすい社会」です。そのキーワードを押さえて、話し合ってみましょう。</p>			
	<p>6 班で共有した意見をクラス全体で交流する。</p> <p>7 今日の授業で考えたことを文章でまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 携帯電話は確かに便利だけど、他人に迷惑がかかるのはよくない。 ・ <u>マナーを守ることで誰もが過ごしやすい社会になるのだと思う。</u> ・ <u>ルールを破っていても、相手に気を遣えないのはよくない。</u> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">ホワイトボードの例</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin-bottom: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">フセン</div> <div style="margin-left: 10px;">○○という意見 理由は～</div> </div> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px 5px; margin-right: 5px;">フセン</div> <div style="margin-left: 10px;">○○という意見 理由は～</div> </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見について別の視点から再度考えることで、さらに「マナー」について深く考えるきっかけとする。 ・ 班でどのような意見が出たかをホワイトボードにまとめる。 <p>☆他の資料を読んだ班の意見を聞き、自分の意見について改めて考えることができたか。(観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各班で出た意見を発表させる。 ・ すべての班が発表したところで、本資料のタイトルを示す。 ・ 文章でまとめるときに、自分の生活を振り返りながら書くように伝える。 <p>☆自分を見つめ、「マナー」について考え、自分の生き方として考えることができたか。</p>
<p>終末</p>	<p>8 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 「江戸しぐさ」の話をし、余韻を持って終わらせる。 (備考参照)

7 評価の観点

○生徒側の観点

- ・自分を見つめ、「マナー」について考え、自分の生き方として考えを深めることができたか。

(文章記入・観察)

○教師側の観点

- ・「マナー」の大切さについて考え、実践意欲や態度を育てるような発問構成ができたか。
- ・話し合いを通じて、生徒自身の考えを深めさせることができたか。

8 備考

- ・ 8班編制（1班あたり、4名～5名）
- ・ 本時では本資料の吉永みち子氏のコラムを生徒の実態に合わせ、加筆修正を行ったものを使用する。
- ・ 「江戸しぐさ」とは

江戸時代、江戸の町中では雨が降って傘をさして道路をすれ違うとき、一つの風習がありました。互いが外側に傾けて通り抜ける習慣です。通り道が狭かった道路事情もあるでしょうが、互いに気を配り、外側に傘を傾けることにより、相手に迷惑をかけず楽にすれ違うことができました。この動作は「傘かしげ」と呼ばれ、小さい頃から家庭でしっかりとしつけられたようです。また、狭い道をすれ違う際には、一方の肩を引き、横歩きをして互いに心地よく歩くしぐさがありました。これを「肩引き」や「かに歩き」と言ったようです。江戸の町では、狭い道でも「七三の道」という考えがあり、道路の七分は公道、三分が自分の歩くスペースと考えて歩くことで、急ぐ人が楽に通れるための気配りを大事にしたのです。それは道路だけでなく、川を渡る乗り合い舟では、後ろから舟に乗ってくる人のことを考えて「こぶし腰浮かせ」と言ってこぶしをついて腰を浮かせ、席を奥につめました。

これらの江戸庶民の自然に身につけた行為を「江戸しぐさ」と言います。他にも人と出会ってあいさつをするときには、自然とえりを合わせて胸元をきちっとするとか、前掛けをしている人は外すなど、身なりや服装を整えることで相手に敬意を払いました。「江戸しぐさ」は動作に限らず、言葉、表情、考え方などをお互いに尊重し、気持ちよく生活しようという願いが込められた誰もが身につけたマナーだったと思います。

9 板書計画

ホワイト	ホワイト	マナーは考えを深めるための	ホワイト	ホワイト
ホワイト	ホワイト		ホワイト	ホワイト

飛行機での携帯使用についての新聞記事
男性客の携帯使用により、飛行機の出発が遅れる
繰り返し注意を受けたが、聞き入れなかった。
〔テーマ〕みんなが過ごしやすい社会とは

